

令和3年度 さいたま市立辻小学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立辻小学校  
学校運営協議会  
会長 池田 雅俊

学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

- ・あいさつは、とても大切であるので、子どもたちがしっかり行ってほしい。
- ・あいさつができる子どもを、地域で育てることが大切である。
- ・子どもが、あいさつをするには、親がしっかりあいさつをすることが大切である。
- ・あいさつは、マスクを着用していると伝わりづらいので、動作を取り入れるとよい。
- ・地域住民も動作をいれながら、子どもたちにあいさつをするとよいだろう。
- ・辻地区は、学校、家庭、地域が子どもたちをしっかりと見守ることができているので、安心している。
- ・学校は、困ったことなどを自ら訴えることができない子どもへの対応を意識した方がよい。
- ・ストレスに強くなれる子どもを育成できる取組があるとよい。
- ・来年度は、感染症対策を行いながら、参観日を設けるようにした方がよいだろう。
- ・保護者は、コロナ禍におけるストレスが多いが、日々の日常生活を大切にすることを意識をもつことが大切である。
- ・困ったことなどを自ら声を上げられない子どもへの対応が大切になる。
- ・コロナ禍であるからこそ、変化を怖がらず、硬直化を防ぐ取組が必要である。
- ・コロナ禍で皆、苦勞している。マイナス面の事柄だけでなく、物事のプラス面を見出せるとよいだろう。
- ・学校評価アンケートは、前年度と比較して成果と課題を確認するとよいだろう。
- ・教職員の学校評価アンケートは、20代、30代などの世代別で集計してもよいだろう。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- ・今後も、学校、家庭、地域が連携協力しながら、あいさつのできる子どもをはぐくむ。
- ・教職員は、子どもたちの悩みごとや困りごとなどに積極的に耳を傾け、寄り添い、丁寧に対応する。
- ・感染症対策の徹底を図りながら、可能な範囲で教育活動を保護者、地域に公開する。
- ・コロナ禍における教育活動の在り方を検討しながら、子どもたちにとって有意義な取組を実施していく。
- ・学校評価アンケートの結果をより多面的に分析する。

校長 宮城 裕毅